1. （仮称）「道の駅くまがや」の整備目的

■目的

「道の駅」整備により産業、観光、市民活動を活性化し市民を元気にする休憩拠点の実現

道の駅の活用

①道路利用者への安全で快適な道路環境の提供、地域振興への寄与
②熊谷市の産業・伝統・文化を全国へアピールし、市を活性化する情報発信拠点として
③市民の意向を反映した、熊谷市の特色づくり、スポーツによるまちづくりを促進する場として
④地域資源を活かしながら人々の交流が活発に行われるコミュニティの場として

具体的には

全国的知名度の高い「暑さへの対策」や「ラグビーのまち」の特色を活かした熊谷流のサービスを提供する。特に暑さ対策では、施設全体での熱交換塗料やミスト装置の導入、人工日除けの設置などの本市の暑さ対策事業を施すことで、施設そのものを暑さ対策のＰＲ展示場として活用する。

これらの取組みを通じて、交流人口を取り込みながら、市民の活動や交流が活発に行われるコミュニティの場を形成するとともに、「道の駅」利用者にむけた産業・伝統・文化のＰＲを実施する。

2. （仮称）「道の駅くまがや」の立地計画

■候補地の選定

国道 17 号沿線に位置する「道の駅」の間隔は、高速道路のパーキングエリア設置間隔とされる 15km の距離を超えており、本市内にドライバーが利用する休憩拠点を設置することで交通安全に寄与する。

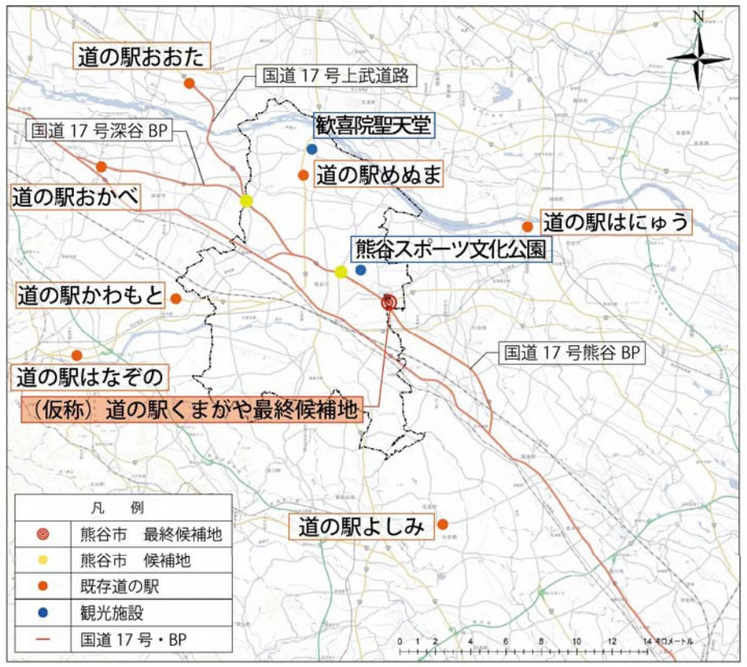


図 2　（仮称）「道の駅くまがや」の候補地及び周辺「道の駅」

3. （仮称）「道の駅くまがや」の機能

(1) 熊谷流の食文化を体験する場

✓　熊谷市ならではのサービスの提供
⇒市内の各地域の食文化を活かした特産品を用いた「熊谷流」サービスの提供
✓　目的地としての魅力
⇒暑さ対策、スポーツ振興イベント、ご当地グルメなど熊谷市を感じ、楽しめる空間の創出

(2) 魅力ある情報をＰＲする場

✓　熊谷市の魅力発信
⇒「暑さ対策日本一のまち」を標榜し、夏場の暑さ対策への取組みや商品を通じた地元の魅力ＰＲ

(3) 多様な人々が行き交う交流の場

✓　熊谷市民だけでなく、道路利用者も一緒となり活動・交流する空間
⇒各種スポーツ大会の実施などスポーツ文化の発展により、熊谷市に訪れた選手や関係者、観戦者等の人々との「道の駅」を通じたにぎわい空間の創出
⇒うどん・そば打ち体験といった地元農作物を用いた料理教室や稲・麦作などの農業体験の実施
✓　災害情報の発信・防災活動拠点としての役割
⇒避難場所や支援物資の輸送に関する災害情報の発信や、災害発生時の自衛隊、警察、消防等の広域応援部隊の活動拠点などの防災機能の充実

4. （仮称）「道の駅くまがや」のコンセプト

（仮称）「道の駅くまがや」のコンセプトとそれを支える 3 つの方針

（仮称）「道の駅くまがや」のコンセプト

仮称「道の駅くまがや」は、「食」を中心とした人々の交流により新たな価値を「生み出す場」として、地域だけでなく、全国から人を集める発信力を持った「道の駅」を目指します。
交流、体験、情報、健康、学習といった地域の魅力が集い、新しいサービスを生み出します。

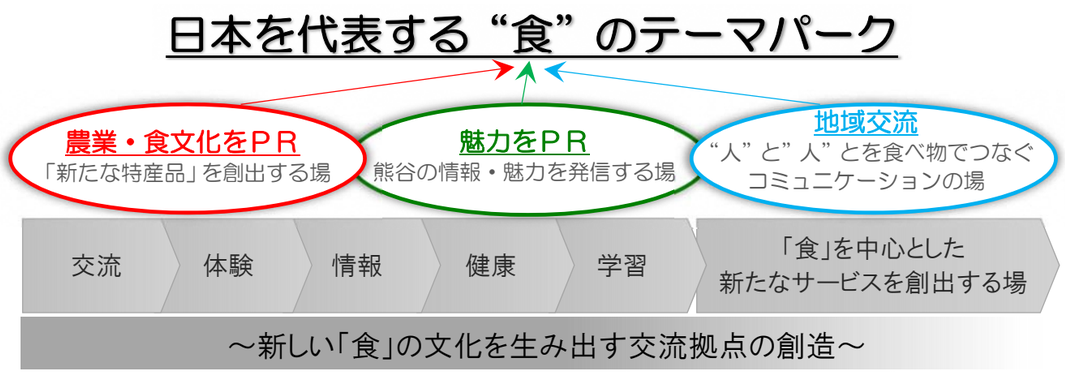


図 3　（仮称）「道の駅くまがや」のコンセプト

5.（仮称）「道の駅くまがや」の整備内容

■想定される「道の駅」に必要な施設

表 2　（仮称）「道の駅くまがや」への導入施設概要

「道の駅」の基本機能	導入施設メニュー（案）
休憩機能	＜駐車場・休憩所＞ ・駐車場 （スポーツ文化公園及び市内のイベント開催時には、パーク＆ライド機能も担う） ・トイレ ・休憩所および道路情報施設 ・暑さ対策設備（熱交換塗料、ミスト装置、人工日除け など）
情報発信機能	＜地域情報発信＞ ・地域情報コーナー（暑さ対策方法の紹介、スポーツイベント情報の提供など） ・市内観光パンフレット、近隣の観光スポットパンフレット等の提供コーナー ・独自の「道の駅」ホームページで各種情報提供 ・農産物加工品などのインターネット販売 ＜窓口施設＞ ・近隣観光情報及びイベント情報提供、宿泊、食事の予約などを案内人が提供する総合観光案内窓口の設置 ＜道路情報＞ ・ルート情報、災害情報、工事規制情報（休憩所に設置する道路情報施設で提供）
地域連携機能（産業拠点形成施設との連携も含む）	＜地元農産物の提供施設＞ ・市場と連携した農産物直売所や屋外マルシェ ・新たな加工品の研究開発を行う農産物加工施設 ・全国各地の青果、果物、地元農産物を用いたレストラン ＜交流施設＞ ・地域住民、農家、企業、大学等との交流を育むための会議室、研修室 ・農産物をその場で堪能できるバーベキュー広場 ・農産物の収穫が体験できる市民農園 ・地元名産物を使った料理教室を開催する調理室（うどんやそば打ち など） ＜公共交通ネットワーク＞ ・公共交通の乗継拠点 ＜行政サービス＞ ・行政サービスコーナー
防災機能	＜防災活動施設＞ ・埼玉県熊谷防災基地と流通センター周辺地区との連携による支援物資供給拠点 ・農産物や地場産品の加工品などの災害時の供給 ・自衛隊、警察、消防等の広域応援部隊の活動拠点機能

＊各施設の敷地面積・建物規模等については、既往事例、整備事業費、ニーズ調査を踏まえて計画

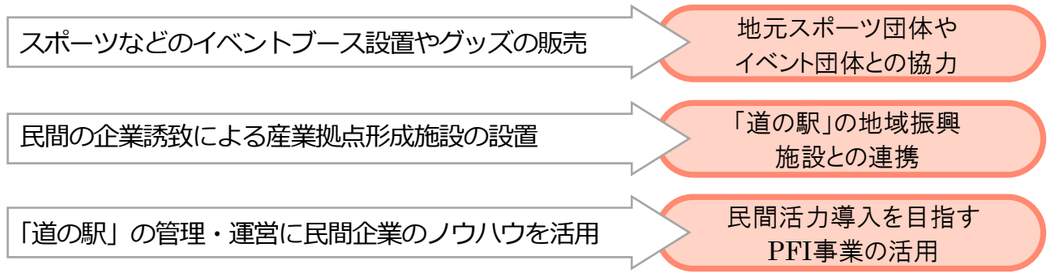
6.（仮称）「道の駅くまがや」の運営方法

■（仮称）「道の駅くまがや」開設後の管理運営

・採算性を確保しつつ、効果的な事業の展開・継続を担うことのできる体制を構築

・活用する運営主体を検討し、多様な主体との連携による地域が一体となった運営を実施

具体的には



7.（仮称）「道の駅くまがや」計画における今後の課題と事業スケジュール

- ◆ 産業拠点形成施設との連携について
- ◆ 民間活力導入のための PFI 事業の活用について
- ◆ 用地買収に伴う事業コストについて

表 3　（仮称）「道の駅くまがや」事業スケジュール（案）

「道の駅」整備スケジュール	平成29年 1年	平成30年 2年	平成31年 3年	平成32年 4年	平成33年 5年	平成34年 6年	平成35年 7年	平成36年 8年
基本構想策定 ・パブリックコメントの実施	■							
基本計画の策定 ・基本設計 ・測量調査、地質調査		■						
整備計画の策定 ・実施設計			■					
管理運営計画の策定 ・民間活力導入可能性調査 ・管理運営事業主体の決定 ・設計協議				■	■	■		
用地買収							■	
各種申請・許可 ・農地転用・開発関係 ・施工協議		■	■	■	■	■	■	
工事								■
ほ場整備事業	■	■	■	■	■	■		

＊今後の検討・協議の進捗により、変更となる